

■ 女商トピックス

源流校「神戸市立女子商業学校」に関する貴重な写真が
本校に寄贈されました。

- ① 寄贈者 鈴木一誠 氏（鈴木商店主鈴木よね刀自のご子孫 太陽鋳工株式会社会長）
 鈴木よね刀自は、大番頭金子直吉とともに、神戸市立女子商業学校創立の功労者
- ② 受贈者 神戸市立神港橘高等学校 谷口元庸校長(第2代)
 校長は寄贈に対して、鈴木一誠氏へ感謝状を贈りました。
- ③ 日時 令和2年(2020年)10月1日(木) 午後16時45分頃
- ④ 場所 太陽鋳工株式会社本社 （鈴木商店記念館 事務局）
- ⑤ 立会 (贈呈側) 金野和夫顧問、岩井伸仁総務部長
 (学校側) 今池康教頭、島田融教諭
- ⑥ 寄贈概要 須磨大手の鈴木別邸で大正6年～8年に撮影された写真13枚
 女商生徒が、鈴木別邸に訪問した際の会見記念・記念学芸会・園遊会写真で、
 神戸市立神港高校学校誌「神港60年」(昭和42年10月)に掲載されている
 記事「鈴木邸訪問記念学芸会プログラム」を裏付ける写真である。



- ⑦ 寄贈された写真は、11月19日学校文化祭「みらい祭」(一般公開なし)の茶華道部展示会場(北館2階作法室隣接の大会議室)で、内部公開展示されました。また、この模様に関する新聞記事が掲載されました。

【神戸新聞朝刊 2020年12月4日金曜日 コラム「日々小論」
「100年前の先輩」論説委員 小林由佳 執筆】

- ⑧ 学校誌「神港60年」(昭和42年10月)からの抜粋記事 p.170

大正15年5月発行の学校一覧によると「大正7年5月19日、鈴木校友会名誉会頭邸に到り新入会員の紹介を行う」という一行がある。当時の校友会誌が現有せず詳細は不明であるが、そのプログラムによって当時を偲ぼう。

鈴木邸訪問記念学芸会プログラム

神戸市立女子商業学校校友会

- | | | | |
|----|------------------------|----------|-------|
| 1 | 合唱 愛国 | (本科1年1組) | 21名出演 |
| 2 | ダンスメイボール | (本科1年2組) | 34名出演 |
| 3 | 朗詠 村の細道 | (本科2年1組) | 11名 |
| | (姉)大角綾子 (弟)長谷川幸子 (他9名) | | |
| 4 | 講話 絹 | (専修科) | 5名 |
| 5 | 競技 記憶と手紙 | (本科2年2組) | 20名 |
| 6 | 舞踏 ツバメ | (本科1年1組) | 19名 |
| 7 | 所作 花筐 | (本科1年2組) | 13名 |
| 8 | 談話 西洋雑誌 | (本科1年1組) | 4名 |
| | レモンド千代子 今尾ひで子 森壽子 内山芳子 | | |
| 9 | 所作 三人片輪 | (専修科) | 4名 |
| | 三木ひろの 森本けい 林千代 松田キヨ | | |
| 10 | 合唱 (二部) 花 | (本科2年2組) | 30名 |
| 11 | 所作 笑の棒 | (本科2年2組) | 13名 |
| 12 | 箏曲 千鳥 | (本科2年1組) | 5名 |
| 13 | ダンス・クワドリール | (本科2年1組) | 34名 |
| 14 | 合唱 校歌 | (生徒一同) | |

裏面には説明や歌詞が印刷されており、主なものを拾って見よう。⑦花室1百合(純潔を意味す) 我国輸出花の首位をしむる事にちなみて対話、2撫子明治天皇御製はらばす思はぬ方に傾ぶかんつゆおきあまる撫子の花3牡丹(富貴にして華麗を意味す) 落尽残紅始吐芳 佳名喚作百花王 競誇天下無雙艶 独占人間第一香 4薔薇(美を意味す) 花咲き初めし折にこそ 薔薇の色は極みなれ 恐れ雲の絶間より もれて希望は輝ける 5堇(謙譲 真面目を意味す) あなうるわしき花 愛らしき花 斯る寂しきあたりに汝ひとり住はんはいと惜しき事なり。広き世界の国々に行きて人々の心に高き思想と潔き愛とをつたへよ美しき汝を見ん人限りなく悦ばんに あなうるわしき花 あな愛らしき花。

- ⑩合唱1 やさしき花よやよ花よ 自然の母のみ乳房に
きよく静かにほほ笑みつ 人の趣味よ尚かれと
ささやく汝がつとめこそ げに美はしく貴けれ
2 ああ美しき花よ花 人の情の花の上に
自然の母の胸の上に ふみの林の木々の上に
咲ける汝こそ永へに 花のつかひとながめ
まし

- ⑧西洋雑誌1 コロンブスの卵 2 ニュートンの懐中時計
3 ワインズベルヒの落城 4 フリードリッヒ大王と兵士との問答



写真は
鈴木よね刀自
(神戸製鋼50
年史より収録)

鈴木よね刀自と創立当時の本校

本校創立について鈴木よねさんが5年間にわたり2万円の寄附金を申し出られたので設立が決定せられ、毎年4,000円と生徒の授業料とで経営維持することを建て前として大正6年4月9日文部省の設立認可を得て開校された。開校、日も浅い5月5日校章を制定し実費20銭で之を配布し着用させた。校章は満月を象ったもので多大の後援を与えられた鈴木商店主鈴木よね子刀自の誕生日が10月15日の月明の夜であったことに因んだということである。

鈴木さんはまた大正7年7月グランドピアノを寄贈され神戸幼稚園にあずけて音楽の時間を同幼稚園で行なった。大正8年4月1日日本年度より鈴木よね氏寄附金が年額4,500円に増額されている。又同年9月1日便所一棟が寄附(459円)され大正10年度で鈴木よね氏の寄附は終了したがその年2月27日校舎新築予算が市会を通過している。

卒業生の採用についても自己の店や知り合いの会社にも働きかけて努力されたようで第1回卒業生中7名が就職している。しかもその中には卒業式の立役者であった答辭を読んだ生徒代表の姿もあった。

創立10周年記念式典では本校創立功労者として、謝辭が送られた。その一節を見ると

「夙に女子商業教育の必要を認められ、資を出捐して本校の創立を賛助せられ其の開校を見るに及びては草創不備の際、陰に陽に校基の確立を擁護せらる、爾來十星霜校運次第に発展して今日に至れるは、洵に貴下援護撫育の效多きに因らずんばあらず、今や創立十周年を記念するに当り、吾等職員生徒卒業生一同、貴下の功勞を追慕して、感謝の情転た切なるものあり、茲に一同を代表し謹んで深厚なる謝感を表す」

とあり、功を賞讃している。